



◆ゼロカーボンシティ 新宮◆

■問い合わせ先 役場環境課 ☎963-1732(直)

地球温暖化について、知ろう、考えよう、行動しよう！

近年多発している異常気象の原因とされる地球温暖化は、みなさんにも身近な問題です。地球温暖化を防ぐために、私たちにできることについて、国が推奨するゼロカーボンアクション30を5月号から5回に分けて掲載していきます。できることから実践してみませんか。

ここに示した8個の項目は、環境省のホームページの表現のまま掲載しており、30個のアクションは、これらの項目の下に示されることになります。
詳しくは「クールチョイス」で検索してください。

ひとりでできること
ゼロカーボンアクション30

エネルギーを節約・転換しよう！	太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう！
CO2の少ない交通手段を選ぼう！	食口スをなくそう！
サステナブルなファッションを！	3R（リデュース、リユース、リサイクル）
CO2の少ない製品・サービス等を選ぼう！	環境保全活動に積極的に参加しよう！

※「サステナブルな」とは「持続可能な」という意味です。

太陽光パネル付き・省エネ住宅に住もう！

⑧ 太陽光パネルの設置

エネルギー源が半永久的でクリーンな太陽光発電にすることで、CO2の排出を抑えることができます。

○自家発電することで、電気代を大幅に抑えることが可能になり、余剰分は売電することも可能です。

○最近では初期費用ゼロで太陽光パネルを導入できるプランを提供する企業も増えています。

⑨ ZEH(ゼッチ)

ZEHとは、年間の住宅のエネルギー消費量が正味でゼロとなる住宅です。住宅の気密性を高め、高断熱化、高効率設備により、消費エネルギーを減らし、太陽光パネルによりエネルギーを創ることで実現できます。

○健康で快適な室内環境を保ちながら遮音・防音効果の向上も期待できます。

○災害時の停電を回避したり、電気自動車へ充電をしたりすることもできます。

⑩ 省エネリフォーム・窓や壁などの断熱リフォーム

熱中症の約半数は住宅内で起こっています。熱中症やヒートショック(急激な温度変化によって、血圧が大きく変動し、体に負担がかかる現象)の予防対策に、断熱リフォームがおすすめです。

○断熱性・気密性の向上で、冷暖房費を抑えられます。

○廊下や脱衣所など部屋間の室温差をなくすことで、体への負担を減らすことができます。



⑪ 蓄電池(EV・車載の蓄電池)・省エネ給湯器の導入・設置

日中の余った電気を家庭用蓄電池で貯めて、夜間の必要な時に使うことで、電気代が節約できます。また、停電時も活用できます。

○増加する自然災害などに、非常用電源として備えておく心安いです。

⑫暮らしに木を取り入れる

CO₂の吸収や国土を災害から守るといった森林の持つ多くの働きを発揮させるためにも、木材を使い、植林して、森を育てることは大切なことです。

○木の持つ調湿作用などは、快適な室内環境につながります。

○木を使うことで、植林や間伐などの森林の手入れにも貢献できます。

○暮らしに木材を取り入れることで、木の持つ素材感ならではの温かみを感じられます。

⑬分譲も賃貸も省エネ物件を選択

住宅の脱炭素に向けて賃貸でも省エネ化が進んでいます。住まい探しでは、間取りや立地などに加えて光熱費に差が出る省エネルギー性能の高さも考えて選択してみましょう。

○省エネ性能の高い住宅に住むことで、健康で快適に過ごすことができ、家賃以外の毎月の光熱費がお得になります。

⑭働き方の工夫

テレワークやオンライン会議を選択できることにより、従業員のワークライフバランスの向上につながります。事業者にとってもテレワークなどの導入によって電力消費量やコスト削減効果も期待されています。

○通勤や出張による移動時間・費用の削減が得意時間の有効活用もできます。

○人との接触や密の状態を避けられます。

CO₂の少ない交通手段を選ぼう！

⑮スマートムーブ

スマートムーブとは、自動車以外の徒歩、自転車や公共交通機関などを選ぶことです。

自動車のCO₂排出量は、家庭からのCO₂排出量の約1/4を占めます。発進するときに「ぶんわりアクセル」などに注意を払うエコドライブの実施、複数の人で車を利用する「カーシェアリング」を積極的に利用していきましょう。

○自動車は、発進するときには多くの燃料を使います。エコドライブをすると、燃料代を削減でき、同乗者も安心できる安全な運転になります。

○近い距離はできるだけ歩いたり自転車で乗りたりすると、健康的な生活にもつながります。



▲自動車から自転車通勤に変更した職員



⑯ゼロカーボン・ドライブ

ゼロカーボン・ドライブ（通称ゼロドラ）とは、走行時のCO₂排出量をゼロにすることです。

太陽光発電などの再生可能エネルギー電力と電気自動車（EV）、外部の電源から直接充電が可能なプラグインハイブリッド車（PHEV）、燃料電池自動車（FCV）を活用することで実現できます。

○燃料代のコスト削減が望めます。

○キャンプや災害時などに電源としての活用も可能です。



▲環境省ゼロドラ推進ロゴマーク